

FlukeView Forms

文書作成ソフトウェア

チュートリアル 3: メーターのデータをフォームで編集する方法

はじめに

このチュートリアルでは、フォームから不必要なデータを削除する方法について説明します。このチュートリアルでは【保存】と【名前を付けて保存】コマンドを使ってフォームを保存した場合の違いについても説明します。

チュートリアル

メーターで長時間（または非常に短い記録間隔を使って）データを記録すると、非常に多くの読み取り値が取得されます。実行しているテストで、これらの読み取り値のほんの一部だけが顕著な結果を示すことがよくあります。すべての不必要なデータとともにフォームを保存すると、フォームを表示したり印刷する場合に（特に、タブ形式で）、その顕著なデータを見つけたり、そのデータに焦点を合わせることが難しくなります。また、*FlukeView Forms* データベースのサイズが大きくなり、あまり重要でないデータで PC のディスク容量が使われてしまうことになります。

FlukeView Forms には、フォームから不必要なデータを削除する機能が付属しています。ここでは、このチュートリアルの目的上、フォームにすでに保存されているデータを削除します。この方法は、保存していないメーターのデータを含む新しいフォームでも同じように使用できます。

フォーム テンプレートには、メーターのデータやユーザーのデータを表示するフィールドとなるフォーム項目が含まれています。このチュートリアルでは、「フォーム項目」という言葉が一般的に使用されており、特定のフォーム項目名は山括弧で囲まれています。例えば、ラベルのフォーム項目は、このチュートリアルでは <ラベル> と表記されています。

不必要なデータをフォームから削除する方法

ここでは 30 分間記録したデータのフォームを開きます。このデータのごく一部分だけが顕著な動きを示しています。このフォームから顕著なデータ以外のデータを削除します。

1. Windows の【スタート】メニューから [*FlukeView Forms*] を開きます。
2. 現在使用しているデータベースのパス名が、*FlukeView Forms* の上部にある青いタイトル バーに括弧付きで表示されます。このパス名を覚えておきます。このチュートリアルで別のデータベースに変更し、チュートリアルが終了した時点で元のデータベースに戻る際にこのパス名を使用します。
3. 【ファイル】メニューから【データベースを開く】を選択します。*FlukeView Forms* がインストールされているディレクトリを探します。このチュートリアルで使用するフォーム テンプレートを含むデータベース **tutorial.fdb** を開きます。
4. 【ファイル】メニューから【保存フォームを開く】を選択します。ダイアログ ボックスが表示され、tutorial.fdb データベースに保存したフォームがすべて一覧表示されます。

5. **[表示するフォームの選択]** で、フォームのテンプレート「チュートリアルの電圧レポート」の保存したフォーム「8/31/00 14:16:00 - データフォーマットの例」を選択します。**[OK]** をクリックします。保存したフォームが *FlukeView Forms* で開きます。

このフォームのハイライトは、<記録した読み取り値のグラフ> で 30 分間の記録期間の DC 電圧が表示されている部分です。グラフには、記録期間の最後の一瞬電圧が下がっている以外は、記録期間全体に渡って 2 V DC の一定した電圧が記録されています。電圧の下がっている部分を反映したデータを保存し、残りのデータを削除します。

まず、削除したい読み取り値を決定しなければなりません。

1. カーソルを電圧が下がり始めている初めの部分に移動します。カーソルがグラフ データのこの部分にきたら、カーソルの形が矢印から人差し指を指す手のカーソルに変わります。マウスボタンをクリックして、押したままにします。
2. 黄色いポップアップ ウィンドウが表示され、グラフのこの点で始まる読み取り値に関する情報が表示されます。上に表示されるのは、読み取り値の番号です。後で使用するために、この番号を書き留めておきます。
3. 次にカーソルを電圧が下がっている最後の部分（電圧が一定した 2 V DC に戻っている部分）に移動します。手順 1 を繰り返して、この読み取り値番号を同じように書き留めておきます。これで、保存したい顕著なデータの最初の番号と、電圧が下がっている部分の後に続く一定したデータの最初の番号がわかりました。

<記録した読み取り値のグラフ> の下には、<読み取り値の記録表> フォーム項目があり、メーターによって記録されたすべての読み取り値が表示されます。表の初め（灰色）の欄は、読み取り値の番号を示しています。書き留めておいた最初の番号までスクロールします。この表の行に表示されている読み取りは、顕著なデータの読み取り値です。さらに、次に書き留めておいた番号までスクロールし、一定したデータの最初の読み取り値を見つけます。この 2 つの番号の間にある読み取り値のみを保存します。

1. **[ツール]** メニューから **[読み取り値の選択]** を選択します。**[読み取り値の選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。<記録した読み取り値のグラフ> が見えるようにこのダイアログ ボックスを移動します。

[読み取り値の選択] ダイアログ ボックスにある最初の表は、フォームの <読み取り値の記録表> に対応しています。ダイアログ ボックスの表で書き留めておいた最初の読み取り値の番号までスクロールし、その行をクリックして選択します。

2. 同じ表でさらに書き留めておいた 2 番目の読み取り値の番号までスクロールします。**Shift** キーを押しながら、この行を選択します。選択した 2 つの読み取り値の間にあるすべての読み取り値（行）が反転表示状態になります。
3. **[フォームにコピー]** をクリックします。フォームを保存するように指示されたら **[いいえ]** をクリックします。これで、フォームの <記録した読み取り値のグラフ> と <読み取り値の記録表> には、選択した読み取り値のみが表示されます。

さらに顕著な読み取り値の表示数を減らしたい場合は、この手順を繰り返し、**[読み取り値の選択]** ダイアログ ボックスでさらに少ない読み取り値を選択します。ここで、初めに選択した読み取り値の番号が読み取り値 1 に、2 番目に選択した読み取り値の番号が最後になっていることに注意してください。

初めからやり直して、フォームにすべてのデータを表示する場合は、**[元に戻す]** をクリックします。すべての読み取り値がフォームおよび **[読み取り値の選択]** ダイアログ ボックスに表示されます。

フォームに希望どおりのデータが表示できたら、**[閉じる]** をクリックします。

【保存】 および 【名前を付けて保存】 コマンドの使用

フォームに加えた変更を保存するには、フォームを保存しなければなりません。これは、**【保存】** または **【名前を付けて保存】** のいずれかを **【ファイル】** メニューから選択して行います。この 2 つのコマンドには、重要な違いがあります。

【保存】 は、加えた変更で元のフォームに上書きします。このオプションを選択すると、**【読み取り値の選択】** ダイアログ ボックスで削除した不必要なレコードがすべて永久に失われます。このオプションを使うと、*FlukeView Forms* のデータベースのサイズが小さくなります。

【名前を付けて保存】 は、新しいフォームを作成して、元のフォームに加えた変更を新しいフォームとともにデータベースに保存します。データベースには、すべてのデータを含む元のフォームが残り、データは失われません。ただし、これにより、データベースのサイズが大きくなり、より多くのディスク容量を使うことになります。

ここでは、**【名前を付けて保存】** を使って新しいフォームを作成します。

1. **【ファイル】** メニューから **【名前を付けて保存】** を選択します。
2. **【新規フォームの追加】** が選択されている状態で **【保存】** ダイアログ ボックスが開きます。保存フォームに関するメモとして「顕著なデータ」と入力し、**【保存】** をクリックします。
3. *FlukeView Forms* のツールバーで、このテンプレートに保存したフォームの合計数が画面上部、右側にある **【保存フォーム】** ドロップダウン リストで 1 つ増えていることに注意してください。フォームのテンプレート名は、ツールバーの **【フォームの選択】** に常に表示されます。))
4. **【ファイル】** メニューから **【保存フォームを開く】** を選択します。**【保存フォームを開く】** ダイアログ ボックスが表示されます。「チュートリアル of 電圧レポート」フォーム・テンプレートに、現在の日付と時刻、メモの「顕著なデータ」が表示された状態で新しく保存したフォームが一覧に追加されたことを確認してください。これが、編集して、保存したフォームです。

チュートリアルの終了

これでチュートリアルが終了しました。実際に使用するデータベースに戻ってください。**【ファイル】** メニューから **【データベースを開く】** を選択し、このチュートリアルを開始する前に使用していたデータベースを選択します。

注記

- 顕著なデータと顕著でないデータを判断するのは、簡単な作業ではありません。ここでは、簡単な例を使用しています。顕著な読み取り値の両側で一定したデータを保存しておく、顕著なデータの状況をより明確に把握できるようになる場合があります。
- チュートリアルの目的で保存フォームにあるメーター・データを編集しましたが、この方法でまだ保存していない新しいメーター・データを含んだフォームも同じように編集できます。
- 実際のメーターのデータを編集したり、(場合によっては) 読み取り値の順番を変更することはできません。

次のマニュアルも参照してください

- *FlukeView Forms ユーザーズ マニュアル*、「フォームの使い方/選択した読み取り値の表示」
- *FlukeView Forms ユーザーズ マニュアル*、「フォームの使い方/保存したフォームの編集」